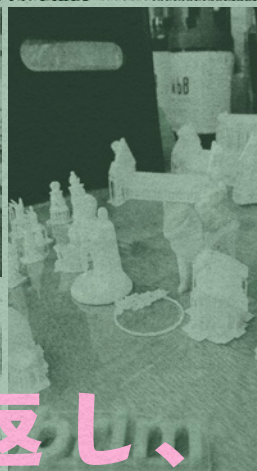
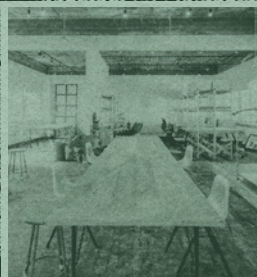


CREATIVE TOWN



混ざり合い、
トライアルを繰り返し、
変化していく

京都市の中で独特の雰囲気醸し出している梅小路。

京都市中央市場、梅小路公園、昔ながらの商店街、かつての花街、

そして、ユニークなホテルたちや3Dプリンター。

多様な文化が共存するまちに、「ものづくり」「アート」「食」を
キーワードに活動する株式会社梅小路まちづくりラボがあります。

ラボのメンバーが梅小路で新しい場づくりにチャレンジしている
人々を訪ねて、座談会を開きました。





**歴史ある芸術のまちに、
アートを軸にした新しいコミュニティを。
京都のB面と呼ばれるエリアで、
どんな文化が育まれていくのか。**

島原エリア

藤崎 アーティストや起業家、クリエイター向けの住めるレンタルオフィス「GATE」が、島原にオープンします。アートを軸にしたコミュニティの活性化を期待したいですね。もともと重要文化財やギャラリーがあって、すごくユニークなまちなので。

木村 B面っぽいおもしろさを感じますよね。まだ色がついていないというか。京都では珍しい空気感がある。かつての産業を下支えにして次にどう変わっていくのか、わくわくします。

藤崎 中心街から外れているからこそ、新しいものを生み出せる土壤があるはず。島原に人が集まって、交流して、未来に向けての思考を発信していきたいと思っています。

西山 僕にとっては、この地域をおもしろいと言ってもらえることが驚きでした。2014年に空き家活用プロジェクトとしてitonowaを立ち上げて、カフェの運営もしていますが、10年たってもまだまだ人が少なくて。イベントで盛り上がる機会は増えたものの、日常的な人通りにはあまりつながっていません。

藤崎 特徴のあるまちですし、これから流入が増えると思います。大きな資本ばかりでなく、個人の方が好きでやっている活動が増えていってほしいですね。他にはないものが蓄積されて、独自の文化ができていくといいな。

椋本 ベースとして京都市中央市場という大きな経済活動があるので、まちの動きを作りやすいように思います。新しい人が入ると、点と点が自然とつながって、新しいことが生まれていきそうな。

西山 そうですね。ここで商売する人がもっと増えたらいいなと思います。嶋原商店街の方々も、新しいことをやっていきたいという思いを持っていますし、itonowaでは、作品の展示やイベントなど、芸大生との関わりはだいぶ増えてきました。

木村 今の若い方は、デザインの思考がモノよりかなり手前から始まりますよね。「そもそもこれって何のためにあるの?」ってところまで立ち返るので、このまちで展示をすること、イベントをすることの意味をすごく考えているんじゃないかな。

藤崎 デザインやアートが地域ににじみ出していくことが、まちづくりにつながると思います。何十年というスパンでまちを見て、いい種が育つ土壤を育てていきたいですね。

木村 モノが溢れている時代に何かを「つくる」なら、それを「使う」ことでどう幸せになるかを考えることが大事な気がしています。地域に関しても、「まちづくり」より「まちづかい」の方が厳密に言うと正しいのかもしれません。

椋本 もっと島原をリサーチして、この地域ならではの素材を集めていきたいですね。GATEは、京都に多い細長い間取りに対するトライアルだと思っています。複数の人が適度に交わりながら仕事と生活するために、壁を立てるのではなく、家具以上建築未満のハコを挿入して領域を分けようと考えました。

木村 学生に建築を教える時に、小手先で調べるんじゃなくて、そのまちに体ごと入るんだってよく言うんです。島原はそれができる場所だと感じます。

西山 何かをつくりたい人や事業を始めたい人がチャレンジできる場所を、島原に増やしていけたらと思います。本人にまちづくりの意識がなくても、友達同士で集まって何か動き出したら、自ずと地域の活性化にもつながるはずなので。

藤崎 GATE という名前には、ここから「芸の都」が活気づいていくイメージを込めました。社会実験を繰り返しながら、この境界の文化芸術活動を盛り上げていきたいですね。

MEMBER
木村吉成 / 椋本大貴 木村松本建築設計事務所
西山拓磨 株式会社タクマデザイン
藤崎壮滋 株式会社梅小路まちづくりラボ



シェアオフィスやブリューパブ、
新たなコミュニケーションの場がオープンし、
「ものづくり」「アート」「食」3つの渦が
重なり合うまちへ。

朱雀宝蔵町 エリア

水口 宝蔵町に京都ピアラボの「KBL THE GARAGE」がオープンしたら、僕らが今までやってこなかった、まちの人がお客さんの商売が始まりますね。路面店ができると、空気が変わりますよ。僕も、ランチのお店を始めることにしました。週末は夜も開けるつもりです。

村岸 このあたり、夜はすごく静かですよ。まちを見に来た時に、6年前に七条木屋町にピアラボをつくった時となんとなく似たものを感じました。混沌とした空気がしっくりきて。

水口 僕が梅小路に来たのが8年前。当時、KAGAN HOTELの扇沢さんやMonozukuri Venturesの牧野さんと、このエリアをブルックリンみたいな産業の集積地にしたいって話してたんです。観光じゃなくて、仕事を見るために人が来るまちに。

米丸 見学や視察、増えましたね。僕がここに来て最初にいいなと思ったのは、水口さんの周りのコミュニティやったんです。シェアオフィス「葡萄とパスタ」で子供たちが夏休みの宿題をしてたり、四国から遊びに来た方がいたり。ここに来なかつたら出会わなかった人たちの豊かな時間があって。

村岸 いいですね。ピアラボでは醸造もするので、つくる人と話しながらビールを飲んでもらえます。僕はもともと空き家再生やシェアハウス運営をしていたので、七条木屋町では周りの人たちと一緒にフリーペーパーや高齢者の生活をサポートする商店を作ったりもしています。ここでは何ができるかな。

米丸 村岸さんが来てくれて、めちゃめちゃ心強いです。今はものづくり系の人との関わりが多いので、そこに「食」が加わると、万人共通で楽しめるからいいですね。地域の方、市場の方と出会うきっかけにもなるし、すごく楽しみです。

水口 醸造もやるの、いいですね。「つくる」ことに寛容なまちなので、うるさくても、荷物の積み下ろしで店の前にトラックが止まっても大丈夫。

村岸 フードは市場の売れ残った野菜を仕入れさせてもらって作ろうと思ってます。近くにアートホテルや大型ホテルもあるので、海外の方にも来てもらえたら嬉しいですね。

水口 梅小路エリアにはもっと英語のコミュニケーションが必要だなと最近思っていて、真剣に勉強を始めました。ビールを飲みながら、色んな人が混ざり合っていっていいな。

村岸 海外のお客さんが増えると地元の方が入りにくくなっちゃったりもするので、最初にちゃんと知ってもらう時間を取りたいですね。醸造所を見学してもらおうとか。焦らず、色んな人と喋りながら、ちょっとずつ動かしていく感じがいいな。

水口 大事ですよ。QUESTION 梅小路ができて米丸くんが来て、地元の人たちとの関係性を作ってくれたことが大きな一歩だと思っていて。僕も含め、このエリアに興味を持つ人って、あんまり群れないですよ。だから推進力が弱くて。それを見かねて、京都信用金庫さんたちがぐいっと動かしてくれた。

米丸 外からも人が来て、地域の人ともつながって、まちが変化していきますよね。おもしろいことを生み出していく人が集まっているエリアなので、僕らはそこにうまく巻き込んでもらえて、ありがたいです。お二人の「おもしろい」の基準って何ですか？

水口 まちの話で言うと、僕は気楽なこと。自分がいい加減だから、このエリア独特のゆるさがちょうどいい。この空気のまま、どんどんオープンしていきたいですね。閉まっているシャッターを開けて、人が集まれる場所を増やしていきたい。

村岸 3~4人でなんか始めたら、徐々に仲間が増えて何十人も来てくれるようになって、移住してくる人も現れて……そうやって輪が広がっていくのが楽しくて居心地がいいのかな。

MEMBER

水口 貴之 株式会社 51ACTIONR&D
村岸 秀和 KYOTO BEER LAB
米丸 隼太 コミュニティ・バンク京信

多様な文化が共存するまち

京都は人・モノ・情報の交差点。多種多様な方々から日々いろいろな刺激をいただいています。今回新設した「GATE」も、木村さんと椋本さん、西山さん、KAGANHOTELの扇澤さん他たくさんの方々の知見が活かされています。

南北に走る線路に沿って京都市中央市場の広大な敷地が広がり、古くからの歴史と新しい試みがひしめき合う梅小路エリア。早朝からせりが行われ、アートの展示が開かれ、昔ながらの商店や新しくできたカフェが立ち並びます。常にどこかで何かが変わっている。そんな混沌とした空気を楽しみ、日々を営んでいます。

島原エリア座談会メンバー

コーディネーター

藤崎 壮滋

株式会社梅小路まちづくりラボ 代表取締役
株式会社地域経済活性化支援機構

学問や芸術、伝統などの文化コンテンツが豊富な京都に惹かれて千葉県より移住して20年。京都のまちなかと郊外を行き来しながら、人間を幸せにするまちの有り方を問い続けている。



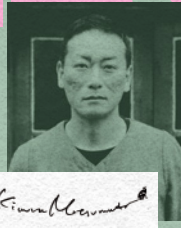
Umekoji
MArKEt

GATE設計担当 /

木村 吉成

木村松本建築設計事務所 共同代表
大阪芸術大学芸術学部建築学科 准教授

梅小路公園の食品残さの堆肥化コンポストの設計をきっかけに弊社と関係が生まれ、今回GATEの設計を担当いただきました。京都の他のどことも異なる梅小路エリアに強い関心と可能性を感じておられます。



Kimbura

GATE入居予定 /

西山 拓磨

株式会社タクマデザイン 代表取締役
クリエイティブディレクター

狭義のデザイン業務に留まらず、島原の文化交流拠点となっているカフェの経営、商店街や地域のブランディングほか、島原に長く関わっておられます。このたび事務所をGATEに移していただくことに。



TAKUMA DESIGN

椋本 大貴

木村松本建築設計事務所

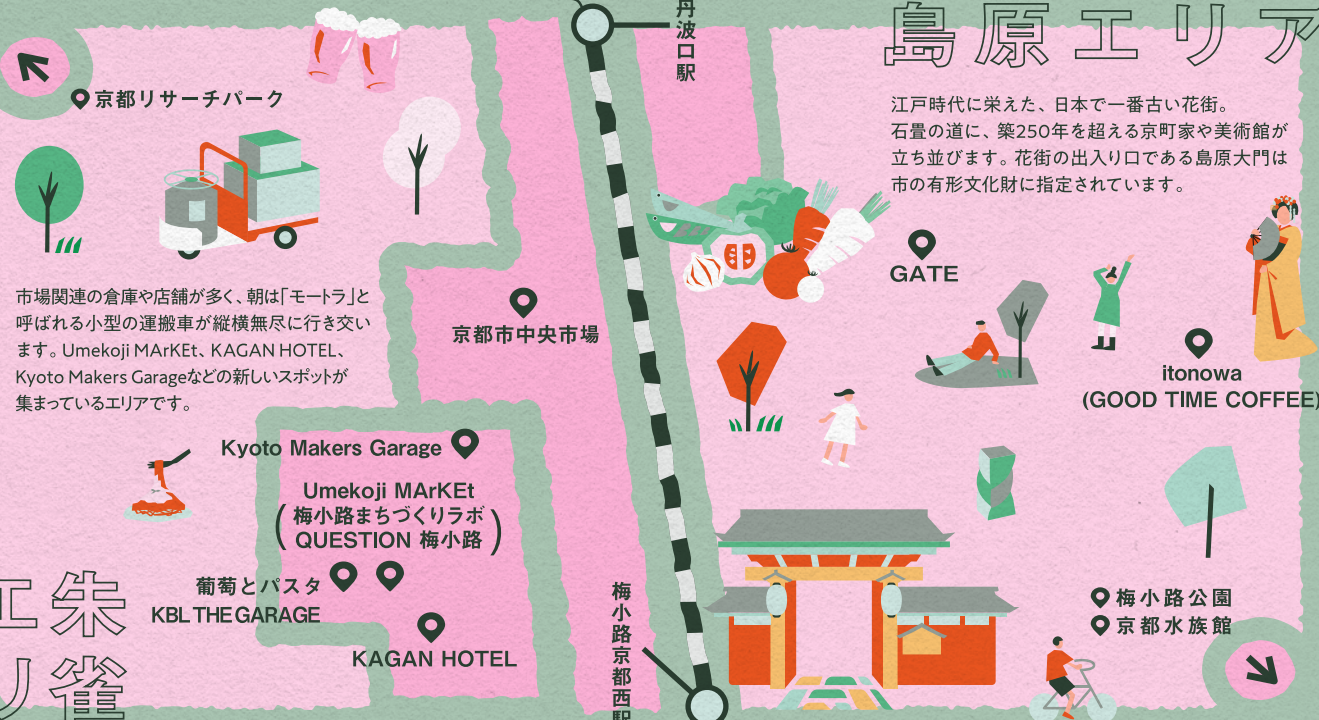
GATEの設計と工事監理をご担当いただきました。この物件の持つ個性と、事務・居住空間としての快適性を両立させたオンリーワン物件に仕上げていただきました。



Kimbura

島原エリア

江戸時代に栄えた、日本で一番古い花街。石畳の道に、築250年を超える京町家や美術館が立ち並びます。花街の出入り口である島原大門は市の有形文化財に指定されています。



朱雀宝蔵町エリア座談会メンバー

二人と話しながら、皆でまちの可能性について考えていることに気がきました。不動産やビールはどんな可能性を秘めているのか。ワクワクしたい方は、ぜひ梅小路を訪れてみてください。きっと二人に会えます。

コーディネーター

米丸 隼太

QUESTION 梅小路 コミュニティマネージャー
株式会社梅小路まちづくりラボ

笠置町での短期移住地域活性化プロジェクトの経験を活かし、梅小路エリアのまちづくりに参画。コミュニティ創造支援の様々な方法を学びながら、地域の方々と一緒に挑戦している実践共感型コミュニティマネージャー。



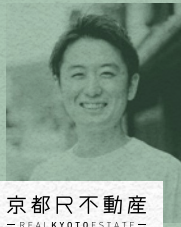
コミュニティハウス
京都

シェアオフィスを運営 /

水口 貴之

株式会社51ActionR&D 代表取締役
株式会社梅小路まちづくりラボ

京都R不動産、代表。京都市中央市場の場外エリアに多種多様な人材集積を目指して「梅小路まちづくりラボ」を立ち上げる。築50年のRC造アパート「RCHOTEL 京都八坂」の運営やリノベーションも行う。



京都R不動産
- REAL KYOTO ESTATE -

ブルワリーバブを開店 /

村岸 秀和

Kyoto Beer Lab 代表

古民家再生からクラフトビール業界へ参入し、今春、梅小路エリアに2拠点目オープン。KBL代名詞「茶ビール」も梅小路での2拠点目「まち」との関わりから生まれた活動であり、「まち」と「ビール」を近づける。



Kyoto Beer Lab